

自然保護の窓

第10期霊長類保護委員会より

1. 「日本霊長類学会保全・福祉活動助成」制度について

日本霊長類学会では、霊長類の保全と動物福祉の振興を目的として、保全もしくは動物福祉にかかわる調査研究および活動に対して助成する「日本霊長類学会保全・福祉活動助成」制度を2008年に新たに設置いたしました。助成の対象者は、本学会正会員個人あるいは正会員を代表者とするグループで、毎年若干名を対象に1件10万円程度を助成します。詳細については、本号挟み込み記事をご参照ください。ご応募をお待ちしております。

(室山泰之)

2. 特定鳥獣保護管理計画技術マニュアル(ニホンザル編)をめぐる経緯について

特定鳥獣保護管理計画技術マニュアル(ニホンザル編)の改訂については、2007年の霊長類学会自由集会で概要が明らかにされて以来、環境省や関係者と協議を重ねてまいりました。また、2008年には霊長類保護委員会主催の自由集会を開き、広く学会会員にも問題の所在を周知するとともに、学会としての対応経緯をご説明してきました。その後、2009年3月に環境省において、環境省及びマニュアル改訂の関係者と、会長をはじめとする霊長類学会関係者との間で、再度内容について協議を行ない、不適切な箇所の一部については修正することが確認されました。また、そのほかの問題箇所については、後日、具体的に指摘する文書を霊長類保護委員会より環境省に送付しました。

現在、クマ類、シカ、イノシシを対象とした特定鳥獣保護管理計画技術マニュアルについてはすでに意見募集が終了していますが、ニホンザル編については実施されていません。今後、意見募集があった時点で内容を確認し、適宜対応する予定です。

(室山泰之)

3. 特定鳥獣保護管理計画技術マニュアル(クマ類編)に対する意見募集への対応について

特定鳥獣保護管理計画技術マニュアル(クマ類編)

の改訂にあたり、環境省から意見募集がありました(募集期間:2009年3月27日~4月25日)。その中で、ニホンザルがクマ類より繁殖率が高く、捕獲圧に対しても脆弱ではないという記述があったため、以下のような意見を、日本霊長類学会霊長類保護委員会名で送付しました。

「クマ類とニホンザルの繁殖特性等について記述があるが、ニホンザルの繁殖率はクマ類と同等かむしろ低く、捕獲圧にも脆弱であることが知られている。この例示は不適切であるため、削除すべきである。」

(室山泰之)